

ハーモニー

Harmony

第77号 2018年8月31日発行

日本養護教諭教育学会

Japanese Association of Yogo Teacher Education

日本養護教諭教育学会

事務局：〒448-8542

刈谷市井ヶ谷町広沢1

愛知教育大学養護教育講座
後藤研究室

TEL&FAX 0566-26-2491

振替口座：00880-8-86414

<http://www.yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp>

目次

第26回学術集会のお誘いと企画紹介……………1	2018年度研究助成金研究の進捗状況の報告……………6
第26回学術集会プログラム……………2	「研究助成金」の申請期限が迫っています……………6
プレコンGRESの企画と実施……………5	学会誌第22巻第2号の投稿募集……………7
「養護教諭の専門領域に関する用語の 解説集<第三版>」の発行にむけた検討……………5	理事会報告(要旨)……………7
トピックス……………5	事務局より……………8
私の県の「ここが特色」②……………6	編集後記……………8

第26回学術集会のお誘いと企画紹介

学会長 津島ひろ江 (関西福祉大学)

今夏は日本列島に自然災害が到来し、全国各地での猛暑の中での復旧作業が進んでいる今日この頃ですが、会員の皆様はいかがお過ごしでしょうか。お元気でお過ごしと拝察申し上げます。

このたび、2018年9月29日(土曜日)・30日(日曜日)の2日間にわたり、関西福祉大学(兵庫県赤穂市)において開催される日本養護教諭教育学会第26回学術集会へのお誘いと企画の紹介をさせていただきます。今回の学術集会は、「連携・協働して子どもの育ちを支える養護の探究」をメインテーマといたしました。子どもが抱えている現代的課題を解決するためには、チーム学校のみでなく、教育、医療、福祉など地域と連携・協働した組織活動が求められる中での養護教諭の専門性と役割を包括的な視点から探究したいと考え企画しました。

第一日目(29日)の午前中は、開会前に理事会主催のプレコンGRESとして、参加者がそれぞれの立場(現職養護教諭、行政、養成機関、学生など)で協議し、学びを深め合うワークショップです。今年度は「改めて養護教諭の倫理綱領を学びあう」をテーマに行われます。学術集会プログラムの最初は、「包括的な連携時代に養護教諭に期待されるコーディネーション能力」と題し基調講演を行います。次に、特別講演「これからの地域医療施策の展望」と題し、厚生労働省医政局医事課長 佐々木健氏にご講演をいただきます。先生は8月1日付で地域医療計画課から異動され、ご多忙な時期にもかかわらず、本学会には必ず参加し

たいといわれるお言葉には、学校保健、養護教諭への期待が秘められていると思います。続くシンポジウムでは「連携・協働して子どもの育ちを支える養護の探究」という本学会のメインテーマについて議論します。養護教諭の立場から三村理加氏、管理職の立場から村田吉弘氏、特別支援学校看護師の立場から山本裕子氏、児童福祉の立場から江口晋氏の4名のシンポジストがそれぞれの分野から子どもの育ちを支えるために養護教諭への期待することのご提言があり、フロアの皆様と一体になって進行していきます。最後の理事会からの報告は「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集」の改訂と「養護教諭の倫理綱領」第13条における養護実践基準の検討についての中間報告があります。

第二日目(30日)は、午前中に一般演題46題(口演24題、ポスター22題)の発表があります。時間は重なりますが研究助成金研究発表1題があります。昼休みの企業協賛によるランチョンセミナーは①教職員向け学校訪問プログラム-糖尿病児のより良い環境づくりを支援する取り組み-(サノフィ株式会社)②電磁波って危ないの?(電気安全環境研究所電磁界情報センター)があります。子ども理解のためにもご参加ください。午後からは総会後に教育講演「子どもの命を守る-学校事故判例から学ぶ-」と題し、大江橋法律事務所弁護士である石原真弓氏にご講演いただきます。先生のご講演からは養護教諭への期待も見えてくると思います。学校事故については学校関係者だけでなく、地域の人たちの関心も深いことから一般公開(無料)といたしました。温泉の町赤穂市での学会で、皆様にお会いできることを楽しみに、ご参加を心よりお待ちしております。

日本養護教諭教育学会 第26回学術集会プログラム

メインテーマ「連携・協働して子どもの育ちを支える養護の探究」

期 日：2018年9月29日（土）12：30～30日（日）15：50
会 場：関西福祉大学（兵庫県赤穂市新田380-3）

◀9月29日（土） 11：00～ 受付 2号館1階▶

◇プレコンgres（9：30～11：30） 2階 215教室…………… 理事会・学会活動委員会
「改めて、養護教諭の倫理綱領を学びあう」

◇開会行事（12：30～12：40）

◇学会長基調講演（12：40～13：20）ホール（A100）……………座長 鈴木 裕子（国士館大学）
「包括的な連携時代に養護教諭に期待される コーディネーション能力」 関西福祉大学看護学研究科 津島ひろ江

◇特別講演（13：30～14：30）ホール（A100）……………座長 宮下 和久（和歌山県立医科大学）
「これからの地域医療施策の展望」 厚生労働省医政局医事課長 佐々木 健

◇シンポジウム（14：40～16：40）ホール（A100）

「連携・協働して子どもの育ちを支える養護の探究」

コーディネーター 北口 和美（元大阪教育大学）
森脇裕美子（姫路獨協大学）

シンポジスト 三村 理加（姫路市立高浜小学校） 養護教諭の立場から
山本 裕子（京都光華女子大学） 特別支援学校看護師の立場から
村田 古弘（広島市立古市小学校） 管理職の立場から
江口 晋（大阪府中央子ども家庭センター） 児童福祉の立場から

◇学会活動報告（16：50～17：50）ホール（A100）

- 1 「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第三版＞」の発行にむけた報告
- 2 「養護教諭の倫理綱領」第13条における養護実践基準の検討について（中間報告：第2報）

◇懇親会（18：30～20：30）赤穂パークホテル（赤穂市さつき町36-12）

◀9月30日（日） 9：00～受付 2号館1階▶

◇口演発表Ⅰ（9：30～11：50） 2階 213教室

<原論、歴史>……………座長 鹿間久美子（京都女子大学）
O-I-1 米国占領政策下の沖縄における「養護教諭」誕生 ○和氣 則江（琉球大学）
O-I-2 幼稚園に勤務する養護教諭が抱く養護教諭観－幼稚園養護教諭へのインタビュー調査から－
○岩波 詩野（千葉大学大学院教育学研究科）他

<原論、歴史>……………座長 河田 史宝（金沢大学）
O-I-3 養護教諭の役割認知と担任及び管理職の養護教諭の職務に対するニーズへの影響要因についての検討
－児童生徒数・校種・養護教諭の経験年数との関連に着目して－ ○塚原加寿子（新潟青陵大学）他
O-I-4 養護教諭の職業的アイデンティティ尺度（簡易版）の提案 ○波多 幸江（飯田女子短期大学）他

<養護実践>……………座長 菊池美奈子（梅花女子大学）
O-I-5 学校事故への対応における保護者の「苦情」に対する養護教諭の意識
－小学校養護教諭へのインタビュー調査から－ ○木下 知子（埼玉大学大学院）他
O-I-6 愛着障がい疑われる生徒への養護教諭の支援－事例検討から－
○井上 陽子（米子市立淀江中学校）
O-I-7 問題解決的な学習を取り入れた歯科保健活動の取組み
－児童委員会活動および歯科指導を活用して－ ○三宅（小川） 昂子（姫路市立城乾小学校）

◇口演発表Ⅱ（9：30～11：50） 2階 214教室

<養成教育>……………座長 西牧 眞里（鎌倉女子大学）
O-II-1 養護教諭養成大学の「養護概説」において重視している視点
－教育系、看護系、学際系別の特徴－ ○鎌塚 優子（静岡大学）他

- Ⅱ-2 養護教諭学生の経験過程と自己肯定意識の変化 第1報 ○竹内 理恵 (徳島文理大学) 他
 ○Ⅱ-3 養護教諭志望学生の経験過程と自己肯定意識の変化 第2報
 -保健室ボランティア経験と自己肯定意識の関連- ○貴志知恵子 (徳島文理大学) 他

- <養成教育>.....座長 平井 美幸 (大阪教育大学)
 ○Ⅱ-4 養護実習での学生の学びと課題-学生の自己評価をもとに- ○西岡かおり (四国大学) 他
 ○Ⅱ-5 食物アレルギー児のアナフィラキシーショックに備えた養護教諭の役割
 -養護実習を経験した看護学生のインタビューから- ○岡井千沙子 (吉備国際大学大学院) 他

- <養成教育>.....座長 平松 恵子 (びわこ学院大学)
 ○Ⅱ-6 養護教諭を志向する学生のためのライフスキル教育の評価と有用性
 ○池田真理子 (福山平成大学) 他
 ○Ⅱ-7 養護教諭養成の臨床看護実習 (外来実習) を考える ○村松 十和 (帝京短期大学) 他

◇口演発表Ⅲ (9:30~11:10) 2階 215教室

- <健康教育>.....座長 池添 志乃 (高知県立大学)
 ○Ⅲ-1 大学生の保健学習知識の評価と教員養成における学校保健教育について ○大野 泰子 (鈴鹿大学)
 ○Ⅲ-2 学童期の子どもの食物アレルギーに対する認識 ○永松 弓乃 (尾道市立御調西小学校) 他

- <保健室経営>
 ○Ⅲ-3 保健室経営に関する文献考察 ○岡田 眞江 (前広島県立広島西特別支援学校) 他

- <その他>.....座長 新沼 正子 (安田女子大学)
 ○Ⅲ-4 組体操実施の安全対策に関する研究-小学校教員へのインタビュー調査-
 ○久我原朋子 (山陽学園大学) 他
 ○Ⅲ-5 韓国と日本の青少年の危険行動の実態と保健教育 ○宋 昇勲 (大手前大学)

◇口演発表Ⅳ (9:30~11:10) 2階 217教室

- <その他>.....座長 山田 景子 (岡山県立岡山特別支援学校)
 ○Ⅳ-1 大学における協働して受診を促す定期健康診断の取り組みの報告
 ○吉田 民枝 (広島国際学院大学)
 ○Ⅳ-2 発達障がいのある子どもを持つ母親の医療受診場面と学校生活での支援ニーズ
 ○塩野和貴子 (吉備国際大学大学院) 他

- <その他>.....座長 高田恵美子 (畿央大学)
 ○Ⅳ-3 A大学生の情報通信機器利用及びインターネット依存の実態について-男女比較から-
 ○中村 雅子 (福山平成大学) 他
 ○Ⅳ-4 中学生の情報通信機器の利用について -依存傾向と学校適応感との関連-
 ○湯本 里紗 (福山市立蔵下小学校) 他
 ○Ⅳ-5 東日本大震災における養護教諭の対応と備え-災害エスノグラフィーから-
 ○石原 貴代 (名古屋学芸大学) 他

◇研究助成金研究発表 (11:20~11:50) 2階 217教室.....座長 鈴木 裕子 (国土館大学)
 養護教諭の複数配置に関する養成機関での授業モデル研究 発表者 鈴木 薫 (就実大学) 他

◇ポスター発表Ⅰ (9:30~12:10) 1階 A113教室

- <原論、歴史>.....座長 三上 眞美 (大阪市立平野南小学校)
 P-I-1 明治に学校に配置された看護師の医療と教育の流れ ○中務 京子 (関西福祉大学大学院) 他

- <養成教育>
 P-I-2 LTD話し合い学習法を科目「学校保健論」に試行した教育効果
 -2年間に及ぶアクティブ・ラーニングを通して- ○古角 好美 (大和大学)
 P-I-3 保健室ボランティアに関する研究 ○永井佳奈恵 (鬼北町立愛治小学校) 他

- <養成教育>.....座長 大野 泰子 (鈴鹿大学)
 P-I-4 養護実習における自己評価の分析 (第2報) ○上原 美子 (埼玉県立大学) 他
 P-I-5 ICTを活用したアクティブラーニング型授業の実践報告①
 -基礎看護実習における授業支援システムの利用- ○高橋紀和子 (鎌倉女子大学) 他

- P-I-6 ICTを活用したアクティブラーニング型授業の実践報告②
 -教職実践演習(養護)における協働学習ツールの利用- ○西牧 眞里(鎌倉女子大学)他

<現職教育>.....座長 波多 幸江(飯田女子短期大学)

- P-I-7 養護教諭20年以上経験者における職務上の困難感 ○上原 美子(埼玉県立大学)他

- P-I-8 アナフィラキシーショックに対応する教員と養護教諭のスキルアップ研修の検討
 -インシデント事例の分析を中心に- ○池永理恵子(関西福祉大学)他

◇ポスター発表Ⅱ(9:30~11:50) 1階 A113教室

<養護実践>.....座長 西岡かおり(四国大学)

- P-II-1 発達障害のある児童生徒への保健室における養護教諭の支援 ○沖西紀代子(県立広島大学)

- P-II-2 健康行動実践への動機づけを高める工夫の検討-睡眠とメディア接触に関する指導を通して-
 ○坂井三代子(一宮市立南部中学校)

<養護実践>.....座長 沖西紀代子(県立広島大学)

- P-II-3 養護教諭と担任、教職員が連携して行う見える保健室登校児の支援
 -「応援シート」の作成・活用を試みて- ○兩宮麻衣子(武蔵野市立第二小学校)

- P-II-4 過換気発作時の養護教諭の対応と「気晴らし」の効果の検討
 -小・中・高・特別支援学校に在籍する養護教諭の質問紙調査に基づいて-
 ○大場真紀子(埼玉大学大学院)他

<保健管理>.....座長 古角 好美(大和大学)

- P-II-5 境界性パーソナリティ障害による自傷行為と養護教諭の対応
 ○静岡 藍子(南部町立会見第二小学校)他

- P-II-6 養護教諭の専門性を発揮する救急処置をめざして-アメリカのスクールナースと比較して-
 ○金山 結(福山市立赤坂小学校)他

- P-II-7 学校防災マニュアルにおける医療的ケアと養護教諭の役割分析
 ○鈴木みちる(関西福祉大学大学院)他

◇ポスター発表Ⅲ(9:30~11:50) 1階 A113教室

<その他>.....座長 中村 雅子(福山平成大学)

- P-III-1 大学生の健康管理について(Ⅰ)-睡眠への配慮- ○平松 恵子(びわこ学院大学)他

- P-III-2 大学生の健康管理について(Ⅱ)-過ごし方と自己管理の意識- ○新沼 正子(安田女子大学)他

<その他>.....座長 大平 曜子(兵庫大学)

- P-III-3 大学生の自覚的健康からみた食生活の意識と実態 ○山本八千代(北海道科学大学)他

- P-III-4 女子学生の月経の経験からみた養護教諭が行う健康相談の必要性
 ○矢野由紀子(愛知みずほ短期大学)他

<その他>.....座長 鎌塚 優子(静岡大学)

- P-III-5 特別支援教育における教諭の連携の類型に関する研究(1)
 -養護教諭の勤務校の概要・特別支援教育の連携などについて- ○林 幸範(滋賀短期大学)他

- P-III-6 特別支援教育における教諭の連携の類型に関する研究(2)
 -養護教諭の勤務校での特別支援教育の実態などについて- ○石橋 裕子(帝京科学大学)他

- P-III-7 発達障害のある子どもの「よいところの見つけ方」に関する一考察
 -ワークシート事例分析における小学校教員と保護者との比較- ○古川 恵美(畿央大学)他

◇ランチョンセミナー(12:00~13:00)

①2階 215教室 サノフィ株式会社

「職員向け学校訪問プログラム-糖尿病児のよりよい学校環境づくりを支援する取り組み-」

②1階 118教室 一般社団法人電気安全環境研究所電磁界情報センター

「電磁波って危ないの? -電磁過敏症についても解説します- WHO見解」

◇総会(13:10~14:10) 2階 218講義室

◇教育講演 一般公開(無料)(14:20~15:50) ホール(A100).....座長 後藤ひとみ(愛知教育大学)

「子どもの命を守る-学校事故判例から学ぶ-」

大江橋法律事務所 弁護士 石原 真弓

プレコンGRESの企画と実施

学会活動担当常任理事 小林央美（弘前大学）

今年度のプレコンGRESは、2018年9月29日（土）午前9時30分～11時30分の開催となります。テーマは「改めて、養護教諭の倫理綱領を学びあう」です。本学会における「養護教諭の倫理綱領」に関する検討は、2008年度から2010年度までの時限委員会によって行われ、2013年度には倫理綱領検討特別委員会を立ち上げて条文化し、2015年度総会において承認されました。多くの時間をかけた検討であり、会員の皆様と検討委員会の方々の叡智の賜といえます。しかし、一昨年度のプレコンGRESや昨年度のワークショップのアンケート結果では、十分に理解されているとは言い難い状況でした。そこで、「養護教諭の倫理綱領」がより一層会員の皆様に理解され、養護教諭の実践に活かされていくことを目指し、本テーマを取り上げることとしました。

今回は、「養護教諭の実践事例」を取り上げ、具体的な「倫理綱領」の活用場面や捉え方について会員の皆様と語り合いながら深めていきたいと思っています。倫理綱領が身近なものとして感じられるワークになると思います。どうぞ、お誘い合わせの上ご参加ください。

養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第三版>の発行にむけた検討

同解説集の改訂ワーキンググループ

「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集<第三版>」の発行作業を行っています。これは2017年度からの事業であり、ワーキンググループ（以下、WG）を立ち上げて進めています。

第1回WGは2018年1月8日に実施し、改訂版に加える「新用語」と執筆分担等の計画を確認しました。第2回WGは2018年5月27日に実施し、各用語の『定義』と『解説』の内容を検討しました。

その結果、①新語の「養護教諭の倫理綱領」「保健教育」「チーム学校」については『定義』と『解説』、②その他の32の用語については『定義』の修正文を、6月のハーモニー第76号発送時に会員の皆様へ送付し、ご意見を募集しました。結果、3名の会員から5つの用語についてご意見があり、さらに記載内容の検討を行い、2018年7月21日に第3回WGを開催し、全35語の『定義』と『解説』について再修正を行いました。今回、その原案を同封いたしましたので、ご意見をお寄せください。

今後の予定として、2018年9月29日（土）の第26回学術集会で第三版の原案をご報告させていただきます。そこで皆様のご意見をいただき、さらに検討を加え、2019年3月には皆様のお手元に<第三版>をお届けできるようWGのメンバー一同頑張っています。よろしくお願いたします。

トピックス

文部科学省「学校における医療的ケアの実施に関する検討会議」（中間まとめ）が公表されました

学術担当常任理事 鈴木裕子（国士舘大学）

本紙前号で紹介した標記会議は2018年6月20日に「中間まとめ」を公表しました。同会議は、特定行為以外の医療的ケアを含め、小・中学校を含む全ての学校における医療的ケアの基本的な考え方を再度検討し、医療的ケアを実施する際に留意すべき点等について整理することを目的としています。

中間まとめでは、地域医療関係者の協力を得ること、保護者の付添いは真に必要と考えられる場合に限りであること、特定行為以外の医療的ケアは個々に対応を検討すること、医療的ケア児が在籍する学校やその設置者が各関係者の役割分担を整理し相互に連携協力しながら責任を果たしていくことが重要であることなどを述べ、別紙として標準的な役割分担の例を示しています。

それによると、養護教諭は他の教職員と同様の役割に加え、次の役割が示されています。

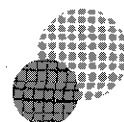
- * 学校保健（保健教育、保健管理等）の中での医療的ケアの位置付け
- * 児童生徒等の健康状態の把握
- * 医療的ケア実施に関わる環境整備
- * 主治医、学校医、医療的ケア指導医等医療関係者との連絡・報告
- * 看護師と教員との連携支援
- * 研修会の企画・運営への協力 等

その他の役割分担の例として、ガイドライン策定、指導医委嘱及びケアを実施する看護師の雇用・派遣委託は教育委員会の役割、校内の医療的ケア実施要領策定や本人・保護者への説明、安全委員会の設置・運営等は管理職の役割、医療的ケア児の個別の健康管理や個別マニュアルの作成は看護師の役割などとしています。（下線は筆者付記）

この会議では、引き続き人工呼吸器等の管理や看護師・教職員の研修等について整理し、年度内に取りまとめることにしています。中間まとめの本文と資料は以下の文部科学省HPで読むことができます。

特別支援教育→資料（データ、通知、答申、報告書等）→通知等

http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/tokubetu/material/1406380.htm



千葉市教育研究会 保健養護部会に入っ

今優佳（千葉市立宮崎小学校）

千葉県の中でも、私が所属している千葉市について紹介します。千葉市には、千葉市教育研究会という研究組織があり、その中の保健養護部会に197名の養護教諭が所属しています。保健養護部会では「養護教諭としての専門性や養護実践の質を高める」ために、テーマ別に7つのグループに分かれて、3年周期で研究を進めています。主な特色は、次の3つです。

1つ目は、テーマ別に7つのグループに分かれて研究を進めていることです。現在は「キャリア発達」「来室者対応」「がん教育」「ベテランに学ぶ」など様々なグループがあります。1つのグループは10名～20名ほどのメンバー構成となっており、それぞれが自分の興味があるグループに属しています。

2つ目は、専任講師を迎えて、指導をしていただいていることです。この研究部会では、3年周期で研究を進めているため、まず1年目には研究計画の立て方等の「キャリアアップ研修」を全員に行っています。それ以降も、グループごとに計画から経過を講師にみていただき、的確な助言をいただいています。

3つ目は全体研究発表会を開催し、すべてのグループが3年間研究したことを発表していることです。発表後には互いに意見を述べ合い、さらに深めるようにしています。この発表会を経た上で、千葉県養護教諭研究発表会で発表するグループや学会等で発表するグループもあります。

そして、3年間研究した後は、一度グループを解体して、新たなテーマのもと研究が始まりますが、中には継続して研究を続けていくグループもあります。このような流れで、千葉市ではグループ研究を進めています。

さて、私自身は、養護教諭になって3年目、この部会に入って3年目となります。まだまだ、日々の仕事をこなすことで精一杯ですが、先輩方と一緒に日常の疑問を明らかにできることは、本当に貴重な機会だと感じています。最初のうちは「研究」という言葉を聞くと、難しそうだと思っていました。しかし、「保健室で起こっていること」や「養護教諭が感じていること」をわかる形・伝えられる形にすることは、私のような未熟なものにとっても参考になりますし、他の方にも養護教諭が行っていることを理解していただく大切な機会だといえます。

また、自身が属していないグループの内容も参考になるものばかりで、日頃、悩みに思っていることを解決するヒントになっております。これからも、千葉市の先生方と協力をして、養護教諭としての専門性を高めていけるよう努力したいと思っております。

野田智子（埼玉医科大学）

この度は2018年度研究助成金研究として採択していただき、ありがとうございました。申請時のテーマは「特別支援学校における養護教諭の専門性に関する研究」でしたが、テーマの幅が広いので具体的に示すようにとのご意見を頂き、「肢体不自由特別支援学校養護教諭の養護実践にみる専門性の検討」というテーマに変更し、研究を進めております。医療技術の進歩と在宅医療の普及により、肢体不自由特別支援学校に在籍する児童生徒の障害の重度重複化傾向は進行しています。このような状況の中、養護教諭は悩みつつも手さぐり状態の実践を続け、養護教諭同士で情報交換しながら実践を積み重ねてきました。しかし、残念ながら自らの実践を発信し、肢体不自由特別支援学校の養護実践として活用されるまでには至っていません。本研究では、肢体不自由特別支援学校の養護教諭の養護実践から職務に必要なとされる知識、技術を明らかにし、その専門性について検討することによって肢体不自由特別支援学校養護教諭の教育プログラム構築の一助にすることを目的とします。研究は所属機関の倫理審査委員会の承認を得て、肢体不自由特別支援学校での経験年数2年以上の養護教諭に面接調査を依頼し、10名の先生から承諾を頂きました。現在は夏休みの調査に向けて準備中です。

「研究助成金」の申請期限が 迫っています！

学術担当常任理事 鈴木裕子（国士舘大学）

前号でもお知らせした「2019年度研究助成金」の申請期限は9月10日（月）です。養護教諭教育に貢献し得る独創的な研究のご応募をお待ちしております。選定は、総会での承認を経て決定します。詳細および申請書は、本会HP「主な活動」→「研究助成金研究」をご覧ください。

それとは別に、今年も学術集会で発表された一般演題の中から、学会長、座長、理事の推薦による「投稿奨励研究」の選定を行います。こちらは特に現職養護教諭による研究の推進をめざした制度です。選定された研究は学会誌への投稿時に査読費用7,000円が免除され、掲載時には投稿奨励研究であることが明記されます。座長の皆様には改めてご推薦のお願いをさせていただきます。選定された方には10月下旬頃までに個別に連絡しますので、進んでお受けくださいますようお願いいたします。

本会では、養護教諭教育の学問的な枠組みを意識して、学術集会における一般発表の演題区分を定めています。この区分に対する会員のご意見を引き続き募集しています。学術集会での発表演題等もふまえ、ご意見等をぜひメール等で学会事務局までご連絡ください。

学会誌第22巻第2号の投稿募集

編集委員 青柳千春（高崎健康福祉大学）

本学会誌は「養護教諭の資質や力量の形成及び向上」に寄与することを目的に刊行しています。1998年3月の創刊より2018年度で22巻を迎えることができました。多くの会員の皆様の投稿に感謝申し上げます。

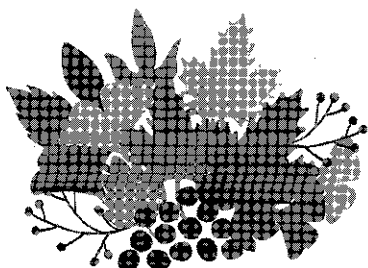
さて、養護教諭は学校教育法で規定されている「養護をつかさどる」教育職員です。日本養護教諭教育学会では、「養護教諭とは、学校におけるすべての教育活動を通して、ヘルスプロモーションの理念に基づく健康教育と健康管理によって子どもの発育・発達への支援を行う特別な免許を持つ教育職員である」（2003年度総会決議）と定めています。養護教諭が専門職である以上、その専門性を支える理論の構築が必須であると考えます。

学校には、さまざまな健康課題を抱えた子どもがいます。養護教諭は、子ども一人一人を見つめ、「いま」子どもが直面している健康課題を捉え、解決へ向けて試行錯誤を繰り返しながら、柔軟に対応しています。その実態を踏まえた日々の実践を、客観的に問い直すのが研究活動です。日々の養護活動の中から課題を見出し、解決へ向けて仮説を立て、客観的に検証をすることで、「どのように変容したのか」「どのような支援・方法が有効であったのか」が明らかとなり課題が整理されます。その成果をまとめ研究論文として広く発信することは、単に個々の養護教諭や当該学校の変化をもたらすだけではありません。他の多くの養護教諭の共有財産となり、子どもの発育・発達への支援を行う養護活動に役立てられるものと考えます。日々の実践や思いを、一步踏み込んで「研究」という視点でまとめてみませんか？

投稿の締め切りは、年2回（9月末と3月末）です。学会誌の巻末にある投稿規程、投稿原稿執筆要領、論文投稿のしかた、投稿時のチェックリスト等を熟読し、手続きに沿って準備をしてください。皆様からの論文投稿を心よりお待ちしております。

<編集委員会事務局>

〒310-8512 水戸市文京2丁目1番1号
茨城大学教育学部教育保健教室 斉藤ふくみ
TEL & FAX 029-228-8298（研究室直通）
E-mail fukumi.saito.naru@vc.ibaraki.ac.jp



理事会報告

総務担当常任理事 大川尚子（関西福祉科学大学）

2017年度第5回理事会議事録（要旨）

1. 日 時 2018年4月8日（日） 9:30～12:00
2. 場 所 名古屋国際センター5階 第4会議室
3. 出席者 後藤、大川、加藤、河田、小林、斉藤、鈴木、塚原、圓岡、三木、宮本、森、幹事：稲垣（欠席者：古賀）

4. 議 事

- 1) 第3回及び第4回議事録（案）の承認
- 2) 2017年度総括
 - ①理事長より2017年度の全体総括がなされた。
 - ②総務担当より編集委員会会計を本部会計に連結したことが報告された。
 - ③学会活動担当よりプレコンGRESの運営に関する課題が提示された。
 - ④学術担当よりHPの更新や学術集会実行委員会との連携という課題が提示された。
 - ⑤編集担当より査読の進め方等の課題が提示された。
- 3) 第Ⅶ期全体総括
 - ①理事長より会則等の規程改正が課題として残ったこと、「養護教諭の倫理綱領」の周知が必要であることなどが総括された。
 - ②総務担当より新入会員の確保、学会HPの運用・改善の必要性が示された。
 - ③学会活動担当よりプレコンGRESの広報や当日の意見交換の場の提供という課題が提示された。
 - ④学術担当より助成金の返金を求める内規改正を行ったこと、助成金研究への応募が少ないこと、投稿奨励研究の選定基準の明確化や演題区分に基づく学問構造の検討、学会HPの改善・充実が必要であることが示された。
 - ⑤編集担当より学会誌の超過頁数に関する課題が報告された。
- 4) 第Ⅷ期への申し送り事項
 - ①理事長より、申し送り内容として、会則等の2018年度中の改正、倫理綱領の周知、学会活動の重点化などが確認された。
 - ②総務担当より議事録作成、会員増の推進、学会HPの更新などの事項が確認された。
 - ③学会活動担当よりプレコンGRESの広報や当日の意見交換の場の提供への取組が確認された。
 - ④学術担当より助成金研究への応募数を増やすこと、投稿奨励研究の選定基準を明確化すること、演題区分に基づく学問構造を検討すること、学会HPの改善・充実をはかることなどが確認された。
 - ⑤編集担当より、投稿論文の精度をあげること、ハーモニーの企画を検討することを確認した。

2018年度第1回理事会議事録（要旨）

1. 日 時 2018年4月8日（日） 16：00～16：45
2. 場 所 名古屋国際センター5階 第4会議室
3. 出席者 後藤、今富、加藤、上村、河田、小林、鈴木、塚原、平井、松永、圓岡、三木、幹事：稲垣（欠席者：古賀）

4. 議 事

【審議事項】

1) 2018年度事業計画

- ①理事長より、「養護実践基準」の検討、会則等の規定改正、「養護教諭の専門領域に関する用語の解説集＜第三版＞」の発行、日本養護教諭関係団体連絡会による養成カリキュラム調査の推進、「養護教諭の倫理綱領」の周知、養護教諭教育の理念を支える学術的な枠組みの検討、教員養成における学校保健の必修化、チーム学校実現への参加が提案され承認された。
- ②学会活動担当より、2017年度の利用者の改訂WGメンバーに今期の学会活動委員会の理事（上村・塚原・小林）を加えること、用語の解説集第三版発行に向けての活動を理事会にはかりながら進めることが提案され承認された。
- ③学術担当より、演題区分のアンケート、意見を集約して7月の理事会で報告すること、今年度中にハーモニーで提案し、来年度からの活用を目指すことが提案され承認された。なお、今年度は現行の演題区分を使用することが確認された。
- ④編集担当より、特集企画として第Ⅷ期の事業計画に基づいた内容を取り上げることなどが提案され承認された。

【報告事項】

- ・「養護教諭の倫理綱領」第13条における養護実践基準の検討経過について資料をもとに報告された。今後は枠組みの検討にむけた育成指標との関連もみることを確認した。



事務局より

事務局長 圓岡和子

☆ハーモニー等の発送にヤマト運輸のDM便を利用していますので、移転先に転送されません。発送先を変更された場合は、速やかに変更届を提出してください。

☆年会費の納入を電信扱いでする方は、氏名の他に会員番号も入力してください。所属先のみ記載では会計処理ができませんのでご注意ください。年会費を入金済みであるにもかかわらず請求書が届いた場合は、処理されず保留となっている可能性がありますので、お問い合わせください。

☆周りの方で養護教諭教育（養護教諭の資質や力量の形成及び向上に寄与する活動）に興味のある方がいらっしゃいましたら、是非、本会へのご入会をお勧めください。

☆その他、何かお気づきの点がありましたら、下記学会事務局までメールかFAXにてお知らせください。よろしく願いいたします。

<学会事務局>

TEL & FAX 0566-26-2491

E-mail JAYTEjimu@yogokyoyu-kyoiku-gakkai.jp

編集後記

今年の夏は全国的に厳しい暑さとなりました。そして、日本各地で災害が発生し、痛ましい事件や事故の報道も絶えません。皆様が平穏な暮らしをお過ごしであると、願わずにはられません。

さて、編集後記をお借りし、皆様にご報告申し上げます。この度、ハーモニーの特別企画をリニューアルすることになりました。第34号から始まった特別企画は、3つの企画へと発展し、運用されてきました。多数の会員の皆様にご執筆いただきながら、永年に渡り足跡を残してきました。心より御礼申し上げます。その歩みを踏襲し、今後も会員の皆様の相互交流を図るよう、新企画としてお届けしていきたいと思っております。次号では、「新・私の実践と研究」と題し、新たなスタイルで養護教諭教育に関する実践や研究をご紹介します予定ですが、ぜひたくさんの方の皆様に参加いただき、これからもハーモニーを育ていただければ幸いです。

（平井美幸）

